

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社ほのぼの月寒		
事業所名	グループホームほのぼの音羽		
所在地	苫小牧市音羽町2丁目10-1		
自己評価作成日	平成25年4月10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0193600079-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔でほのぼのとした雰囲気の中で、和気あいあいと楽しく生活できるよう支援させていただき、介護される方の身になって、愛情ある真心のこもった日常生活のお世話を心がけています。又、町内会や隣の幼稚園との繋がりを大事にすることに努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほのぼの音羽」は、公園や保育園がすぐ近くにある苫小牧市の閑静な住宅地に立地している。施設長は、開設8年目を迎えて安定した職員と共に、一人ひとりの利用者が人生の最期に「幸福だった」と思ってもらえるようなケアを目指し、各利用者に日々明るい笑顔で接している。法人の指導の下、今年度より委員会を設置して職員間で役割を分担しながら運営に取り組むと共に、外部評価や日々のケアの中から課題を見つけて全職員で向上心を持って取り組んでいる。公園の花壇の一角を借りてチューリップを植えたり、盆踊りや親子レクリエーションなどの町内会行事にも積極的に参加している。近隣の保育園とは、クリスマス会や敬老会などを通して子供達と交流が深められている。また市役所とも、書類提出や運営推進会議などの機会に相談したり情報交換を行う事で連携が深められ、施設長が役所を訪問した時には担当職員の方から声をかけてもらえるまでの関係が構築されている。前回の課題であった職員の救急救命講習への取り組みとして、各ユニットで救命講習の指導員を育成して研修を行う事で、心肺蘇生法が実践に役立てられている。医療面においても、殆どの受診を事業所で支援し、看取りにも取り組むなど、全職員で可能な限りの支援に積極的に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(1F アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔とおもいやり」として3つの理念を掲げ、その中で地域と密着したグループホームを目指すこととし、努力している。	地域とのつながりを大事にしながら需要に応え、地域に密着したグループホームを目指すという、法人共通の理念を掲げ、玄関や居間に掲示している。会議や地域行事に参加する機会に理念を再確認しながら、日々実践できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年6回は達成していないが、運営推進会議の開催。又、町内会の行事や避難訓練の見学等行っている。	地域の盆踊りや親子レクリエーションに参加して地域住民と交流している。近隣にある保育園のクリスマス会に利用者がサンタクロースとして訪問したり、敬老会にお遊戯を披露してもらうなど、子供達と交流する機会が多く持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大々的には行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に行事等の報告になっている。避難訓練の見学も行ってもらっている。	今年度は、既に3回の会議を開催し、年度内にあと3回開催を予定している。外部評価結果報告や災害対策などを議題に取り上げているが、報告中心の内容になっている。家族の参加促進とテーマの充実が今後の課題となっている。	年間のテーマを設定して家族に案内し、事前に参加できない家族の意見を収集して会議に活かすなど、更に充実した会議になるような取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で関わりを続けている。又、電話や訪問で相談にのってもらうことがある。	施設長は、書類提出や相談事があればすぐに市役所を訪問しており、担当職員の方から声をかけてもらえるまでの関係が出来ている。看取りの書類関係や避難訓練内容などについて相談し、アドバイスを受けて運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、19時～7時くらいとしている。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を含む、マニュアルを整備している。身体拘束禁止委員会を設置して定期的に勉強会を行っているが、前年度から勉強会を実施していない為、今後全職員で11項目の禁止内容を含む拘束について再確認する意向である。	年1回は、禁止の対象となる具体的な行為について、事例などを基に全職員で再確認して理解を深める機会が持てるように期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度くらいは会議を利用して学ぶ機会を設けている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度くらいは会議を利用して学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一方的な説明はせず、理解されたのを確認された上で同意書を記入してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載しており施設にも掲示している。玄関には意見箱を設置。後は面会の際等を利用して気軽に意見を伝えてもらっている。	利用開始時に、意見箱や事業所の相談窓口担当者を説明している。家族の来訪時などに些細な意見を言って貰える関係が出来ており、内容に応じて連絡ノートや苦情記録などに記載して、適切な対応ができるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ではないが、ミーティングや日々の申し送り等を利用しながら聞くようにしている。	施設長は、日頃から各職員の意見や提案に耳を傾けており、業務改善や書類の記録方法などについても職員の意見が活かされている。現在は、ユニットリーダーや委員会などの役割りを各職員が担当して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2ヶ月に1度施設長会議にて、各施設の報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修が主体になっているが、毎年一人は受けるようにしている。又職場内訓練にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度施設長会議にて、各施設の報告を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人ご家族と会い、お話を聞いたり、現在困っている事を聞いたりしている。又入居後もご本人とできるだけ話せる機会を多く持ち、希望は何か求めているものを受け留め早期に実現するよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前ご本人が望んでいることを踏まえ、見学していただき説明も同時に行い、不安や希望等を話し合い、受け留める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談の段階でお話を聞き、グループホームではなく他のサービスが可能であれば、他の所を紹介したり、ニーズにあった所を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常のたわいもない会話の中で利用者さんの言葉から学ぶことがある。又「ご苦労様」「ありがとう」と優しい言葉をかけて頂き励まされている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向や協力を得ながら利用者さんが安心して暮らせるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設側で連れて行ける所は可能な限り支援に努めている。年賀状を送ったり、電話をかける等の支援も行っている。	個別の買い物やパチンコ、お寺などに職員と出かける事もある。以前住んでいた近隣の人や民生委員などが来訪する利用者もいる。知人との電話を取り次いだり、会話の仲立ちをして馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアーにて体操やかかるた等職員が間に入ってコミュニケーションのお世話をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続性は無いが、必要に応じてお互いに情報交換をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の関わりや会話の中で把握に努め、なるべく叶うようにしている。	利用開始時に、家族から生活歴などの情報を得て記録している。新しく得られた情報や変化は、連絡ノートなどに記録しているが、統一した情報の蓄積には至っていない。	記録用紙の書式変更を検討しながら、新しく得られた情報や変化を記録して行く意向なので、その取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や、その思いと感想を聞き記録に残している。同時に主治医と共有して治療の方向性の役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日行っている引継ぎから情報や本人の言葉、行動から状況を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者さんのニーズを聞き入れ、安心して過ごせるよう介護計画を作成している。	家族の評価や意向を聴き取り、3か月毎に職員間で評価して計画作成担当者が更新計画を作成している。ケアチェックシートで介護計画に沿ったケアを毎日確認しているが、更に計画の見直しに活かせるような記録の工夫に取り組む意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診記録、介護記録、毎日つけているケアチェックシート、温度版、連絡帳から個々の情報を共有している。介護計画作成時には毎月行っているカンファレンスや毎朝の引継ぎからの情報や意見を参考に作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市の協力により近くの公園に花壇を作っている。又、個人の趣味や楽しみを続けていけるよう支援している。(カラオケやオセロ等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りのボランティアさんに来てもらったことがある。又、避難訓練は必ず消防の方に来ていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での往診を受けている。担当医や看護師との連携をし、職員が判断に困った時は電話相談している。現在3名の利用者さんは24時間体制契約を行っている。	数名がかかりつけ医を継続しているが、殆ど事業所で受診支援を行っているため、健康状態の変化も詳細に主治医に伝えられている。往診前に各利用者の状態をファックスして診療に活かし、適切な医療が受けられるように支援している。	

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの病院と連携。又全利用者さんの訪問看護を週1回受けている。受診時に日ごろの気づき等相談し、利用者さんが適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状にもよるが長期入院に対し生じる認知症の進行や、身体機能の低下に関し、治療が順調であれば退院の方向に進めたり、病院関係者との連携をとる様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアになった場合の方針は家族へ説明し同意を得ている。1階は看取り経験はまだない。	重度化・終末期対応の指針を作成して、利用開始時に家族に説明している。主治医の判断の下、家族の意向を確認しながら可能な限り看取りを行う考えを示している。主治医、家族、訪問看護と連携して看取りを行った経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、できる限りの事は、病院の搬送するまでの間できるよう職員に周知されマニュアルもある。昨年施設内にて人形を使って、心肺蘇生の研修は受けている。又、今年心肺蘇生を実際利用者さんに行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しての避難訓練は年2回実施している。町内会の方等は運営推進会議を利用して見学はして頂いているが、参加型までには至っていない。	今年度は11月に夜間想定、2～3月に日中想定の方針避難訓練を予定している。職員は、救急救命訓練を受講している。災害備蓄品は整備されているが、地域との連絡網整備と住民参加による避難訓練、火災以外の災害への対応については課題が残されている。	地域との連絡網を整備して役割分担を再確認し、地域住民参加の避難訓練が実施されるように期待したい。また、火災以外の災害時の具体的な対応について、全職員で確認する機会が持たれるように期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような声かけ、対応はしないように努めている。	利用者によっては、触れてほしくない話題もあるので、生活歴を把握することでプライバシーを損ねない配慮をしている。	記録後のカードデックスは閉じるようにし、個人情報の台帳は見えないように保管することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症、理解力を把握した上で、その人に合った説明をし、更に自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを崩さないように努めているが、希望に沿えない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、特定の美容室に来訪して頂き、カットをしてもらっている。洗面所の鏡の前にブラシを置き、いつでも整髪をできるようにしている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や行事等を利用したり、献立を変更したりしている。食器拭きやテーブル拭きのお手伝いしてくれる方はいる。	献立作成と食材の配達、業者に依頼している。おやつは、市販のものではなく、ホットケーキやお好み焼きなどを利用者と一緒に手作りしている。ラーメンやソフトクリームを食べに出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつの時、服薬時の水分は残さず摂取されるよう声かけをし、少ない方にはこまめに水分をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝前は全員が行っている。数名の方は自ら毎食後行っており、介助が必要な方はお手伝いをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	見守りが必要な方は声かけをしながらお手伝いをし、時間を見て誘導をしている。誘導するとき、他利用者さんに気づかれない言葉を使うようにしている。	利用開始時には、おむつを使っていたが、徐々にトイレで排泄できるようになったり、また、おむつからリハビリパンツへ、そして布の下着に変えることもできている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方は水分を調整し腹部をマッサージしているが、それでも困難な時は薬を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日数名ずつ声かけをし入浴している。入浴が面倒と思う方には工夫をして声をかけている。職員同士で協力している。	月曜日から土曜日まで入浴できる体勢を整えており、希望に応じて、随時入浴の介助をしている。浴室には、窓があるので日差しを感じることができ、「今日は登別ですよ」と会話しながら入浴剤を使ってお風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食・夕食後は30分から1時間程自室にて休まれる方が多いが、個々の生活リズムを崩さないように配慮している。又昼夜逆転傾向の方には声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用は聞いたり調べたりして対応している。特に新しく処方された薬は注意点を確認し、服用後経過観察をし医師に報告・相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん自ら掃除を手伝ってくださったり、調理の下ごしらえ等をされている。又、行事の時や希望された時はカラオケをされる。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の方が体調を崩される事も多く、全員での参加はなかなかできませんが、桜を見にドライブに出かけたり、町内会の盆踊りに参加、お祭りのパレードを見学、近隣の公園にて子供たちとふれあいをもてています。又、ご家族の方も外食や買い物、散歩など連れて行ってくれています。	玄関の横に設置しているベンチに座って外気浴をしたり、公園や、住宅街を一周するなど体調や気分に応じて出かけている。冬季は、受診後にドライブを楽しんでいる。今後は、行事委員会をつくり年間の行事予定を立て、外出の回数を増やしていくことを検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っているが、必要に応じて金銭の報告や希望の物を購入している。1名居室でおこづかい程度管理されている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんが希望する時はいつでも家族などに電話をかけるように支援している。又、手紙や年賀状も利用者さんの希望により職員が代筆して支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な思いをさせないように無駄な物は置かず、シンプルな空間にしている。又、季節や行事ごとに飾りつけや模様替えを行っている。	共用空間は、落ち着いた茶系で統一し、居間の窓からは住宅街を眺めることができる。ソファや食卓の椅子に座ってテレビを楽しんだり、台所で調理をしている音や匂いを感じることができる。壁にハロウィンの飾り付けをして季節感を採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ又は食事席にて、利用者さん同士自由に会話できる空間になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に自宅で使い慣れた物を持ってきてもらうようにしている。又、ご本人より希望があれば飾りなどを購入している。	暖房設備と照明器具は設置されているが、それ以外のカーテンやベッド、箆筥、テレビなどの家具、馴染みのある生活用品などを整え、家族と協力しながら、本人が落ち着いて過ごせるような居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除や洗濯をたたむ等その人のその時の状態に合わせて実施することにより、ご本人の力を発揮する場面を作り自立へ繋げている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社ほのぼの月寒		
事業所名	グループホームほのぼの音羽		
所在地	苫小牧市音羽町2丁目10-1		
自己評価作成日	平成25年4月10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600079-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2F アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔とおもいやり」として3つの理念を掲げ、その中で地域と密着しているグループホームを目指すこととし、努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年6回は達成していないが、運営推進会議の開催。又、町内会の行事や、避難訓練の見学も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大々的には行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に行事等の報告になっている。避難訓練の見学も行ってもらっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で関わりを続けている。又、電話や訪問で相談にのってもらうことがある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は19時～7時くらいとしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度くらいは会議を利用して学ぶ機会を設けている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度くらいは会議を利用して学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一方的な説明はせず、理解されたのかを確認した上で同意書を記入してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載しており施設にも掲示している。玄関には意見箱を設置。後は面会の際等を利用して気軽に意見を伝えてもらっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ではないが、会議や日々の申し送り等を利用しながら聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2ヶ月に1度施設長会議にて、各施設の報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修が主体にはなっているが、毎年一人は受けられるようにしている。又職場内訓練にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度施設長会議にて、各施設の報告を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と直接話し、状態や気持ち等を聞き安心して生活を送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事や、不安なこと、求めていること等聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が「その時」まず必要としている支援を聞き出し、見極め、生活環境に慣れて頂けるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんと共に作業を行い、利用者さんの意思を尊重し支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの状況を把握して頂けるように、面会時や電話連絡でお知らせするようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はまだ実施できていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話やゲームをして仲を取り持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用していた利用者さんのご家族の方が、しばらくお手紙などで近況を知らせてくれていた。又、偶然顔を合わせた時にも挨拶などを行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さん一人ひとりが個性に合った生活が送れるよう、生活環境や行動パターンを理解するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんの生活歴等を見るだけでなく、日々のコミュニケーション等からこれまでの生活等把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの様々な生活習慣を観察し、残された可能性を發揮し伸ばせるように、残存機能の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行い、職員同士意見交換を行って、その利用者さんに合った介護計画を作成するように努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や職員間の連絡ノートなどを使い、情報を共有し、実施・改善策に繋げ努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんやご家族、ケアマネージャー等と相談しながら訪問看護やリハビリ等サービスを受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練の実施。消防の方にも参加協力をして頂いている。町内会の方との関わりも適度にできている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や受診の付き添いをし、利用者さんの変化が見られた時等は電話連絡をしている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日の午後に訪問看護の方に来てもらい、利用者さんの状態を診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状にもよるが長期入院に対し生じる認知症の進行や、身体機能の低下に関し、治療が順調であれば退院の方向に進めたり、病院関係者との連携をとる様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアになった場合の方針は家族へ説明し同意を得ている。昨年実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、できる限りの事は、病院の搬送までの間できるよう職員に周知され、マニュアルもある。昨年は人形を使って、心肺蘇生の研修は受けている。又、今年心肺蘇生を実際利用者さんに行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しての避難訓練は年2回実施している。町内会の方等は運営推進会議を利用して見学はして頂いているが、参加型までには至っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの意思を尊重し、個々の利用者さんの尊厳を保つ対応を心がけている。又、プライドを傷つけないように礼儀や節度を守っての対応を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけは行うが自ら決定できるように、細かな説明や声の大きさ等配慮を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの要望を聞き入れ、その人のペースに合わせた支援をするよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度理美容の方が訪問され、カットや顔そりを行っている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理作業や後片付け等できる作業は参加してもらっている。又、誕生会を対象者の好みに合わせた献立を立てる等行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々チェックシートに分量を記入し把握している。利用者さんの状態に合わせ(嗜好・盛り付けはキザミや、ミキサー等)提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる利用者さんが声かけ・見守り、できない利用者さんは介助にて実施。義歯は洗浄除菌を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ使用時間をチェックシートに記入し把握している。日中・夜間問わずトイレの声かけ・誘導し、失敗を減らし、習慣となるように心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・乳製品を多く摂るよう声かけをする。又、医師に相談し、下剤の調整や腹部マッサージ等実施や、運動・散歩も声かけしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間等は当日の往診・受診の関係で、午前・午後と変更になるときがある。(職員の都合である)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで折り紙やラジオ体操を行っており、週1回はカラオケを楽しんでいる。夜間は2時間置きに巡回し、安全確認をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬しないよう服薬する際には、職員同士で確認している。受診や往診等で薬変更の場合等は医師や薬剤師と相談・指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後、おぼん拭き・食器拭き・ゴミ集め等のお手伝いを利用者さん達に声かけをし、職員と一緒にやっている。買い物に行く時も声かけし一緒に出かけることがある。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場は町内会の盆踊りに参加。四季によって公園等に散歩をする。冬場は受診の帰りにドライブがてら遠回りすることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者さんが施設側で管理している。ご本人の希望に沿うように声かけをし、買い物へ付き添う等行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるように声かけをし、掛ける際はできない部分を職員が行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく適度に換気を行い、清潔を保つよう清掃に努めている。又、季節に応じた飾りつけ、テレビの音量や職員の声量に配慮する等の工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる利用者さんが多いため、気軽に会話されている。必要に応じて職員も間に入って会話している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご家族等が用意した物が多いが、ご家族の写真や小物等好みのものを置くよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室等の手すりの確保。車椅子の方が移動しやすいようにスペースの確保。見守り又は声かけを行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ほのぼの音羽

作成日：平成 25年 12月 6日

市町村受理日：平成 25年 12月 9日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議の内容が報告中心となっている。ご家族の参加促進とテーマの充実が課題。	ご家族が参加しやすい会議を行う。	テーマを計画書に記載し、マンネリ化しない内容にしたいと思います。参加できない方でも事前にテーマを伝え、意見や要望等提案して頂けるよう声をかけ、後日議事録を提出いたします。	来年度より実施。
2	6	今年度は身体拘束に関しての勉強会が開催されていない。	身体拘束委員会を年に1～2回は開催する。	今までは全職員が委員会のメンバーでありましたが、各ユニットで代表者を決め、資料の用意や勉強会の開催を行いたいと思います。	12月までに委員会の代表者を定める。3月までに勉強会を実施。
3	23	ご家族などに生活歴等の情報は得ているが、新しく得た情報や変化は、統一したものに記載されていない。	新しい情報は、誰でもすぐ確認できるものに記載する。	統一した書類に、新しい情報を記載します。利用者さんの担当者を決め、担当者が主に記載。記載した内容は、後に見やすいように作成します。	担当者は12月までに決める。その後1ヶ月くらいで情報の更新を行う。
4	35	緊急連絡網に地域の代表者の連絡先が記載されていない。避難訓練の地域の方の参加がない。火災以外の災害の対応を行っていない。	地域の方の訓練の参加と、火災の以外の災害のシュミレーションを行う。	連絡網に地域の代表者の記載。訓練に地域の方も参加できる計画を立てる。介助中に大きな地震が来た際の対応等、会議を利用してシュミレーションを行います。	連絡網作成は12月までに作成。火災以外の訓練等は来年度より実施。
5	36	利用者さんの記録のカードックスが開いた状態であり、簡単に誰でも見るできるようになっている。利用者さんの名前も見やすくなっており、プライバシーの配慮がない。	個人情報の管理の徹底。	カードックスは記録を書いたらすぐ閉めるようにします。利用者さんの名前も頭文字などで工夫します。	実施済み。今後継続。

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。